

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和6年12月18日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670103441
法人名	有限会社 エムエー企画
事業所名	グループホーム「ほのぼの家族の里」
所在地	鹿児島県鹿児島市吉野町6013番地1 (電話) (099) 295-8680
自己評価作成日	令和6年11月1日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和6年12月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は郊外の高台に位置し自然に恵まれており、桜島や錦江湾を見渡すことができます。近くには小・中学校があり、住宅地に溶け込んだ静かな環境にあります。200坪の広大な敷地に芝生の庭、また花壇には四季の花々や野菜が植えられており、小鳥のさえずりや虫の音色が聞こえてきて、ゆっくりと自然を肌で感じることができます。また、入居者は自由に屋内と屋外を出入りされています。当事業所の運営理念でもある「自由」と「尊厳」を大切にしながら入居者の方々へのさりげない見守りや介助をさせていただき、名称の通りほのぼのとした家庭的な雰囲気生活できるような事業所を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・協力医療機関による定期的な訪問診療や24時間の医療連携体制が築かれている。事業所配置の看護師による日常的な健康管理も行われ、家族の意向に沿って看取り介護にも取り組んでいる。
- ・コロナの感染予防のため外出が制限されているが、広い敷地を活かして散歩や咲いている花等を眺めて季節を感じるよう取り組んでいる。
- ・管理者及び職員は利用者の自由と尊厳を大切に支援しており、毎月1回利用者間の話し合い会で食べたい料理ややりたい事を話し合ったり、居室でもゆっくり一人ひとりに寄り添って話を聞いて、食事や行事に取り入れている。
- ・代表者は職員の親睦会を再開し、職員間の交流や良好な人間関係の形成を支援している。職員はノートを利用して代表者と意見交換や相談等を行っている。
- ・管理者は、職員が前向きに取り組めるよう、意見を業務に反映させたり職場環境の整備に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I . 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり，管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスとして適切な事業所独自の運営理念を作り上げている。朝の申送りやミーティングなどの場で理念について復唱したり、内容について度々取り上げ確認するとともに日々のサービスに反映するよう意識付けを行っている	理念をパンフレットに掲示し、職員が理念を意識してケアに取り組むことを目的に申し送りやミーティング時に唱和しており、必要に応じてケアの振り返りを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう，事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスは5類に移行したが現在も感染防止のため、部外者の事業所への立ち入りをご遠慮いただいたり必要最低限の外出しか実施せず意図的に地域との交流は控えた	コロナの感染予防のため、自治会行事への参加及びボランティア等の受け入れを控えている。近隣住民や通学中の児童と散歩時にあいさつを交わす程度の交流を行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	新型コロナウイルスは5類に移行したが現在も感染防止のため、部外者の事業所への立ち入りをご遠慮いただいたり必要最低限の外出しか実施せず意図的に地域との交流は控えた		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3密を避けるため4年前よりご家族や地域の方々を招いての会議は中止し職員のみで行ってきた。本年度より2ヶ月に一度開催しケアの状況等や評価への取り組み状況の報告を行って、出された意見や要望は議事録を回覧しサービス向上に繋げていたが、現在再び職員だけで行っている	利用者のコロナ感染等により運営推進会議は2回のみ対面で実施し、事業所の状況や取り組みを報告し、意見交換を行っている。その他の回は委員及び家族に資料を持参または郵送で届けて、今後はコロナの感染状況を見ながら実施形態等を検討している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	こちらから市役所に出向いた際に市町村担当者とコミュニケーションをとったり、長寿あんしん相談センター職員と情報交換を行っている	支所の担当者とは、窓口に出向いて報告や相談を行っている。生活保護担当者の来訪もあり、協力関係を築くよう努めている。市主催の研修会はリモート及び対面で受講して情報を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を設置し、全職員が身体拘束について正しく理解し、それを行わないケアに取り組んでいる。日中、居室や玄関は鍵をかけずに自由に入ることができるになっている。また鍵をかけないことの大切さを理解し、入居者の単独での外出に一早く気づき、制止せず見守るケアを行うことを実践している。更に言葉による拘束がないよう声かけの仕方も注意している	指針を作成し、委員会を3ヶ月に1回、研修会は年2回実施しており、職員は手順等を理解している。不適切な言葉は会議で取り上げて注意を促している。玄関は施錠せず、外に出たい様子があれば職員が散歩に同行する等で対応し、行動を制限しないケアに取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について社内研修やミーティングで度々取り上げて徹底防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	日常生活自立支援事業や成年後見制度について社内研修で学習する機会を設けている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居契約時に十分に時間をかけて説明を行っている。また入居中や解約時もそのつど契約に関する確認や再度説明を行い、理解・納得を図っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	月一回の割合で入居者同士の話し合いをサポートし、事業所に対しての意見や要望を出していただき運営に反映させている。家族は、家族と職員との連絡ノートの活用や運営推進会議で意見や要望を述べる機会がある。	月1回利用者の話し合いの場を設け、要望等を食事や行事に取り入れている。家族には運営推進会議等で要望を聞き、その都度検討し対応できるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月一回のミーティングや勉強会を実施し、職員の意見や提案を聞き出し運営に反映させている。運営者と職員は個別にノートで意見を交換している	月1回のミーティング時に職員の意見等を聞く機会を設けており、ケア内容の統一や業務内容の見直し等に反映させている。各職員はノートで個別に運営者と意見交換も行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年一回人事考課を行い、その結果を給与、賞与に反映させている。また、有給休暇の積極的消化、役職員の親睦会等を実施し、職員の心身のリフレッシュに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修は全員参加、外部研修は、新型コロナウイルスが5類に移行したことにより、当日勤務扱いとして、常勤・非常勤を問わず希望者や順番に参加し、後日全職員に伝達研修を実施している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は5類に移行したが引き続き新型コロナウイルス感染防止のため管理者や職員は地域の福祉関係者との交流、地域のグループホーム同士の交流を控え、専ら電話で情報交換を行っている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と会話する機会を多く持ち、認知症の程度を見極めながら話を傾聴し受容している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時より当事業所利用対象となるか否かは別として、家族の悩みや相談を聞き、受容することに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時より本人や家族が必要としている支援を見極め、当事業所で提供したり、他のサービス提供事業所を紹介したりしている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は日々の業務の中で、入居者に教えていただく場面や手伝っていただく場面などを意図的に設けながら共に支えあう関係作りに努めている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には毎月郵送している手紙や電話、写真で入居者の様子や職員の対応を伝えたりして情報交換を行っている。また行事での写真をお送りしている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	5類に移行したが新型コロナウイルス感染防止のため家族以外の友人・知人についてもテラスや玄関口で面会を実施している。馴染みの場所については古い昔の記憶で訪問を希望される方もいて訪問支援ができていないケースもあるが、日頃の会話の中に、人や場所の話題をあげるように努めている	家族及び知人とのテラス等での面会や外出での交流を支援し、事業所から毎月写真を添えた近況報告を行なう等、家族との関係が途切れないように取り組んでいる。利用者の希望で職員とドライブに出掛け、馴染みの場所や店を車内から見物することもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の相性を見極め、食事時の席の配置に配慮したり、職員が間に入ることによって孤立しがちな入居者が他の入居者と交流する機会を設けている。また、入居者同士のトラブルにもその都度対応をしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も御家族と電話や手紙で近況を報告しながら、関係が続いている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の入居者との対話、表情や言動からその思いや意向を把握するよう努めている。情報共有のため職員間でノートも活用。月一回の入居者同士の話し合いの場でも意見・要望などをお聞きし、ケアに取り入れるようにしている	月1回の利用者間の話し合いや居室で個別にゆっくり思いを聞き、利用者の意向に添うように努めている。困難な場合は、家族や入居前の状況を参考に、日頃の関わりの中で思いを汲み取るようにして支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人や家族から生活歴や生活習慣などを聞いたり、入居後もその都度必要に応じて尋ねるようにして把握するよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者・家族の意向も取り入れ、一人ひとりの生活のリズムのパターンを把握しながらサービス提供を実施している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者・家族の意見や要望を反映させた介護計画を毎月ケアカンファレンスを実施して作成している	面会や文書で把握した家族の希望と本人の思いを基にミーティングで出された職員の意見を入れて介護計画を作成している。モニタリングを3ヶ月毎に実施し、状況変化時に現状に即した計画に見直している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の入居者の様子、健康状態、ケアの実践や結果は、毎日個別記録に細かく記入され情報を共有するとともに介護計画作成に役立てている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者・家族の状況や要望に応じた通院介助、移送サービス、手続きの代行などの支援をしている。また、家族の宿泊希望については、新型コロナウイルスは5類に移行したが感染防止のため、行っていない		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察、消防、民生委員、他の施設へは事業所のパンフレットを配布したり、特徴を伝えて理解を求め協力を要請している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に医療支援について本人・家族と十分に話し合い、入居後のかかりつけ医を決定している。必要に応じてその都度受診を支援している。また、かかりつけ医の変更に応じている	契約時にかかりつけ医の希望を確認し、全員が協力医療機関の訪問診療を利用している。他科受診は家族対応を基本にしており、事業所看護師の健康管理や必要時の訪問看護の利用を含め、適切な医療を受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当事業所職員の看護師と相談しながら入居者の日常の健康管理や医療活用の支援を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の入院時には情報提供を行い、入院中も早期退院に向けて医師やMSWに相談、情報交換を行っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う入居者・家族の同意書を作成し、事業所が対応し得るケアについて説明を行っている。職員にも日頃より重度化や終末期に向けたケアについて話す機会を設けている	契約時に重度化等の場合の対応について、看取り介護を含め指針で説明し同意書をもらっている。特別養護老人ホームの説明もしている。重度化等の場合、医師から家族に病状を説明して意向を確認し、支援に取り組んでおり、看取り介護の事例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に社内研修で応急手当や初期対応の訓練を実施している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練（年２回）や地震訓練（年１回）、緊急避難時の近隣住民への協力要請を行っている。（近隣住民の緊急連絡網も作成）また、災害に備えて飲料水や非常食の備蓄や地震対策（家具の転倒防止）も行っている	年2回火災避難訓練を昼夜想定で実施し、消防署の立ち合いを1回受けている。地震の避難訓練は年1回自主訓練をしている。近隣住民への協力要請を行っており、自然災害・感染症等の事業継続計画（BCP）を策定している。非常用の備蓄は、3日分の水・カップ麺・缶詰・レトルト食品及びカセットコンロを準備している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者のプライドを傷つけたり、プライバシーを損ねないよう言葉遣いや声かけの仕方、援助方法などを勉強会やミーティングで繰り返し学習したり、不適切な場面があればその場で訂正し、意識づけをおこなっている	研修を実施し、丁寧語を基本にその人に合わせた言葉遣いで馴れ馴れしくならないように気を付けている。利用者の人格の尊重やプライバシーの確保・羞恥心への配慮等に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の意見を引き出すような声かけを行い、余暇活動への参加、活動内容の自己決定、好みの食事・おやつや飲み物の選択などの場面を作っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、それに固執せず臨機応変に入居者の希望も取り入れて、いい意味での変化のある暮らしを支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	入居前の生活習慣も参考にして入居者・家族の希望に応じて支援している（訪問理美容サービスの利用、化粧品や衣類の購入代行等）		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の要介助者が増えたため、入居者と同時に職員が食事を摂る事は困難になったが、食事の準備（つぎ分け）や後片付けの一部は入居者と共に実施している	ミキサー食が多くなっているが、利用者の希望を取り入れた献立で提供し、味見や皿洗い等を一緒にしている。誕生日の特別メニューやケーキ・行事食・仕出し弁当等で、食事を楽しんでもらえるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録して、全職員が把握できるようにしている。食事や水分摂取量が少ない方にはそれぞれ代用品などで工夫して不足しないよう努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、歯磨きの声かけを行い、必要に応じて見守りや口腔ケア用ウェットティッシュ等を用いて介助を実施している。義歯の管理や手入れ(消毒)も支援している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導の声かけを行っている。過度な援助や援助不足とならないよう清潔保持に努めている	排泄パターンに応じた声掛けを行い、日中はトイレでの排泄を基本に支援し2人介助も実施している。トイレでの排泄により排泄用品の使用が減少した事例がある。夜間は身体状況等によりオムツを使用する利用者もある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は入居者の排便状況の把握に努め、薬剤のみに頼らずに食事や運動でも便秘を改善できるよう取り組んでいる		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴日は基本的な曜日はあるが、時間、長さ、回数などは入居者の希望があれば応じるようにしており、拒否の場合も無理強いはいないようにしている	週3回午前中に入浴を支援し、希望等で柔軟に対応している。全員シャワー浴であり、2人介助や希望で同性介助にも対応している。現在は入浴を嫌がる利用者はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の安定した睡眠を確保するために、日中は趣味活動やレクリエーションに取り組んだりして生活のリズムを整えるようにしている。休息も本人の意向を受け入れて体調を考慮しながら随時支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ファイルに服薬中の薬剤について記載された説明書をつづり、全職員が把握するようにしている。服薬は職員が重複して確認を行い、入居者様とも日付の確認及び、服薬されるまで見守りを行い、確認した職員名を記録している。薬の処方や用量が変更された時は特に細かな様子観察を実施し職員間で情報共有している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理、庭の散歩、買物代行など入居者の希望に応じた支援を行っている。（食事の際、調理の準備や片付けに携わった入居者や、洗濯物たたみなどお手伝いして下さった入居者に手厚くお礼の言葉を述べるようにしている）		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	入居者の希望に応じて随時、近隣の散歩や受診などの外出支援を行っている。今後、感染症の流行状況を見極めながら、あらゆる場所への外出支援を検討していく	天候の良い日や希望を聞き、近隣の散歩をしている。年間計画を作成し、初詣や花見に出かけたり、その日の状況でドライブも行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、買物などの外出は控えている状態であり直接入居者が金銭を扱う機会はないが、お小遣いを預けている認識のある入居者からは購入依頼がある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話は事務所の固定電話や入居者個人の携帯電話など入居者の希望に応じて使用していただいている。手紙は受け取られたら入居者の意向に応じて代読したり、保管を行っている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には季節を感じることでできる花や展示物があり、音・光・におい・温度などに配慮しながら生活感あふれる中で過ごしていただいている	リビングはカーテンでの遮光やエアコンと加湿器で適度な室内環境に調節し、換気は窓を開けて行っている。飾りつけや写真で季節を感じられるように取り組んでおり、車いすの動線を確保してソファ等を配置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには1人掛けの椅子や2人掛けのソファを設置し、それぞれが好きな場所で過ごしていただくようにしている。車椅子使用で自力操作困難な方は、意向を確認しながら過ごせるようにしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者にとって使い慣れた家具や小物を居室に置き、テレビやラジオを視聴したり、暦や家族との写真を展示するなどして居心地良く過ごせるようにしている。また、季節感のある展示物や植物、花を飾っている	居室には、ベッドやタンス・クローゼット・エアコンが備えてある。本人は使い慣れた寝具やテレビ・ラジオ・写真・ぬいぐるみを持ち込んで、居心地よく過ごせるようにしている。観葉植物を置き、家族が管理している居室もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ浴室には手すりを設置し、必要に応じて新たに補助具の取り付けを行い、安全かつ自立した生活ができるよう工夫している。居室やトイレ、浴室には家庭的な雰囲気を壊さないような表札を掲げたりして、混乱や失敗を招かないようにしている		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない